

3 埋立ての現況

3.1 瀬戸内海の埋立免許面積

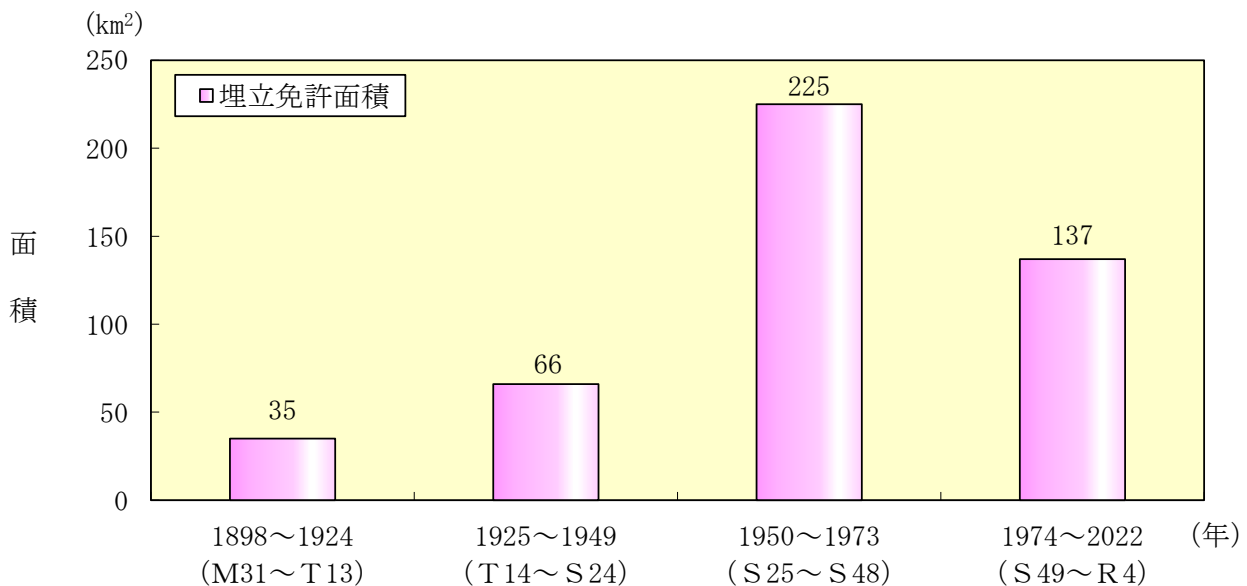
瀬戸内海では明治31年から大正13年までに約35km²が、大正14年から昭和24年までに約66km²が埋立免許された。昭和25年から昭和48年にかけては、重化学工業の集積等による沿岸域の埋立てが盛んになり、その間の埋立面積は約225km²に達した。明治31年から令和4年までの埋立免許面積の合計は表3-1に示すように463km²である。これら瀬戸内海の埋立免許の推移を図3-1に示す。

瀬戸内海における50ha以上の埋立てを図3-2に、大阪湾奥部における埋立状況を図3-3に示す。

表3-1 瀬戸内海の埋立免許面積

	期 間	面積 (km ²)	年数 (年)	平均 (km ² /年)
埋 立 免 許 面 積	1898 (M31) ~1924 (T13)	35	27	1.3
	1925 (T14) ~1949 (S24)	66	25	2.6
	1950 (S25) ~1973 (S48)	225	24	9.4
	1974 (S49) ~2022 (R4)	137	49	2.8
	1898 (M31) ~2022 (R4) 累計	463	125	3.7
瀬戸内海の全体面積	23,203 km ²			
埋立免許面積/全体面積	2.0 %			

注) 埋立免許面積はすでに免許を取得している区域内で再度取得された面積を含む



注) 埋立免許面積はすでに免許を取得している区域内で再度取得された面積を含む
 出典：「瀬戸内海要覧」（建設省中国地方建設局）、環境省調べ

図3-1 瀬戸内海の埋立免許面積の推移